ミネヒロンの肥料・微量要素にこれだけのメリット

群馬県新田郡尾島町はかつて養蚕で栄えた町。いまはここに日本一の特産品があり、これまた有名である。長芋の子分ともいえる大和芋がそれ。ところが長芋とは似て非なるというか、ねばりが強くてこってりとしたコクと甘味があるもいわれぬ、健康野菜だ。この産地のとりわけ研究熱心なグループの間で激賞されているのがミネヒロン（㈱）（高倉乃信社長・茨城県水戸市河和田町二一一八七八一二）の肥料、葉面散布剤、根の張りがよくなり、生育もできたイモも優行の方法で栽培したものと内容的にまったくちがい、病気の発生が少なく農薬散布の軽減はコストダウンにもつながるといったメリットを確認。いまや大和芋栽培には欠かせぬ資材になっているという。茂木重雄、橋本達男両氏に体験を聞いた。

掘り取ったばかりの大和芋。カットしているが、これだと見たとおりの最高級クラスだ。糖度もゆうに11度にある（茂木氏）

五月上旬植え付け
種芋芽出しに
エキヒロン　グリーンエキス

群馬県新田郡尾島町大字大館一、三四五
茂木　重雄氏
同
大字大館一、二七一
橋本　達男氏

—大和芋の栽培はいつごろから始まったんですか。

茂木重雄氏　三十年ぐらい前で、本格的になって二十五年というところでしょう。いまは日本一の大和芋産地と自負しています。ここまで発展するにはJA新田郡尾島支所や青年農業者会議などもPRしてくれたお蔭ですけど、個人の努力というのがいちばん大きいと思います。

—いま生産者は何人いますか。

橋本達男氏　出荷組合に入っている組員が二百九十名で、組合に入っていない人を合わせると全体で三百四十名ぐらいではないでしょうか。その中には兼業農家もずいぶんいますけどもね。

—一人の栽培面積はどれぐらいになりますか。

茂木　一・五㌶ぐらいだろうか……。

橋本　いや、平均だとそんなにはいかないかも知れないね。

—茂木さん、自身はどうですか。

茂木　二・三㌶。

橋本　うちは二・五㌶弱というところです。

—お見受けするところお若いようですが、茂木さんはおいくつ。

茂木　三十七歳です。

橋本　私は四十二歳。二十代の人も一人か二人いますけど、実際に中心になってやっているのは三十五から四十五までの人たちで、そういう層が三十名ぐらいいます。

—それはたのもしい。では本題に入りたいと思いますが、こちらの土質は砂壌土ですか。

橋本　そうです。砂壌土とあと場所によっては火山灰土もあります。最近は火山灰土のほうが多いかな。畑を移動しているというか、他の所も借りて耕作していますんで。

—長芋もそうみたいですけど、大和芋はどちらかといえば砂壌土のほうが合っているのではないですか。

茂木　そうです。

橋本　尾島は利根川が氾濫してできた土壌で、かなり有機質が入っているものだから大和芋には適しているといえるでしょう。それで栽培が広まって現在のような大きい産地になったわけです。でも長年つくってきたからここらで畑を変えたほうがいいだろうということで火山灰土壌での栽培がふえてきているんです。

—植え付けはいつごろになるんですか。

茂木　五月の連休あたりから始まり、遅い人は六月十日、いちばん遅い人で二十日ごろです。

橋本　その前に土壌消毒があります、四月ですけど。消毒後、約一カ月おいて植え付けというかたちになります。

—種イモの選別がたいへんでしょう、相当、吟味しているのではないですか。

茂木　それはもう、なんといっても種にだいですから。

—種イモの消毒というか予措はどのようにやっていますか。

茂木　消毒はホマゾールF剤ではなく土にけいる人もいますし、冷蔵庫へ入れるほうが管理がやりやすいという人もいて、その人の考え方で別々になります。

—種イモの植え付け前にやっていることというと。

茂木　芽出しをおこないますが、そのときにミネヒロンさんのエキヒロンとかグリーンエキスというのを用います。

—エキヒロンというのは速効性の微量要素肥料、グリーンエキスというのは遅効性のミネラルですね。

茂木　そうです。それを種イモに吸わせてやるんです。

—倍数はどれぐらいで。

茂木　五百㍑の水に対してエキヒロンが一㌔、グリーンエキスが一㌔です。

—その液に種イモを浸漬させるわけでしょうが、どれぐらいの時間ですか。

茂木　今年は六時間でしたが、十二時間ぐらい浸漬するときもあります。

—それの効果はありますか。

茂木　芽出しをおこないますが、そのときにミネヒロンさんのエキヒロンとかグリーンエキスというのを用います。

—エキヒロンというのは速効性の微量要素肥料、グリーンエキスというのは遅効性のミネラルですね。

茂木　そうです。それを種イモに吸わせてやるんです。

—倍数はどれぐらいで。

茂木　五百㍑の水に対してエキヒロンが一㌔、グリーンエキスが一㌔です。

—その液に種イモを浸漬させるわけでしょうが、どれぐらいの時間ですか。

茂木　今年は六時間でしたが、十二時間ぐらい浸漬するときもあります。

—それの効果はありますか。

茂木　土に伏せたほうが来年のイモが大きくなると思う。

大和芋栽培の究極を目指す茂木重雄氏㊨と橋本達男氏㊧

橋本　三袋、六十㌔かな、オルガマグは。

—窒素成分が以前に比べて減っていますか。

茂木　減っています、かなり。

橋本　三分の一は減っているのではないかな。もとは三十㌔の上入れていたときもあったんです。いまは多い人でも二十四、五㌔ぐらいでしょう。

茂木　それはトータルでだね。

橋本　そう。元肥は十㌔ぐらいだね。オルガマグの窒素成分が三㌔……。

茂木　アミノパックは四㌔か。

橋本　そんなところだね。化成の十㌔とアミノパックの十㌔でほぼ半分がちがうもの

九月下旬ごろの生育状況

根の張りがすごい

茂木　ありますね。葉の立ち上がりがちがうんです。一㍍ぐらいまで蔓が出てそれが立ったままなんですから。

—ミネヒロンの肥料と出合う前にはそういうことはなかったんですか。

茂木　芽出しというのはしませんでした。これはミネヒロンさんとミネヒロンさんの一連の肥料を取り扱っている宮下農機店さんの指導でやるようになったのです。宮下さんはシバウラトラクターをはじめ農業機械の販売店ですが、農家の研修の場としてシバウラ会というのをつくっており、われわれも二十数人のメンバーの中に加えていただき他強会をやっているんです。そこで芽出しの方法を教わったわけなんです。

—元気な芽が出れば後々までいい影響をおよぼすということがいえるわけですね。

茂木　そうです。そういう処理をすると根の張りが全然ちがうんです。エキヒロン、グリーンエキスを使って芽出ししたものにはほかのことをいろいろやってもなかなか追い付けないんですよ。とにかく根の張りがすばらしい。

—大和芋も深根性のものでしょうから、深起こしをしていますか。

茂木　ええ、やはり土づくりが基本ですからね。以前は五十㌢ぐらいでしたが、いまは七十㌢ぐらい起こしています。

橋本　宮下農機店さんが手づくりで深耕ロータリーをつくったんです。そこまでやってくれる会社ですからね、強い味方ですよ。

茂木　そのロータリーも土の物理性に合ったかたちにつくっているんです。

橋本　土の物理性をこわしたらどんなにいい肥料を入れても効果がないからね。

—種イモの植え付けの深さはどれぐらいですか。

橋本　十二、三㌢です。後で土寄せしますからね。

—植え付け二、三日前に留意することは。

茂木　乾きですね。まだ腐土する前は浅いもんで、芽が出たときに干ばつになるとイモに障害が起きる可能性があるんですよ。

特集

大和芋（ヤマトイモ）栽培のたのしさ倍増

堆肥に勝る効果
安心して使える
サンケルプ　アミノパック
微量要素肥料
ネオグリーンM

茂木　くれる時期がわるかったというか、どちらかというと堆肥の窒素が出過ぎてモの形状がわるかったり、病気が出たりで、十分発酵していない未熟な堆肥を植え付け前にやった場合はとくに病気が出やすかった。窒素過多ですね、それでイモの形状がわるいとか、大きさでも満足できないのが多かったんです。

—するといまは堆肥は入れていないわけですね。

二人　ええ。

茂木　積んではあるんですけどもね。ころ合いを見てくれようかと思っているんですが、やる気にならない。

橋本　十年ぐらい前は仲間で勉強会開いて堆肥をつくっていました。くれる時期は植え付け前がいちばんいいだろうというの考え方でやっていたのですが、そのころは忙しいしましてね。そんなときにたまたまミネヒロンさんと出合ったんです、五年前だったと思いますけど。

茂木　そうですか。それではいいましょう（笑）、サンケルプとアミノ・パックです。

—アミノ・パックというのは動・植物有機を発酵分解した高アミノ酸総合特殊肥料、サンケルプというのは海藻を腐植したものでミネラル、アミノ酸、ビタミン類を沢山含んだものだそうですね。

茂木　知っておられたんですか。

—ええ。この二種類を混合でやるんですか。

茂木　そうだね。どちらも二十㌔入りで、十㌃に十袋から十五袋を、土壌消毒をしてガス抜きするときに入れます。

—それが堆肥代わりで元肥に入れるわけですね。植え付け時にはどんな肥料くれていますか。

茂木　ネオグリーンMだね。

—これもミネヒロンの微量要素混合肥料ですな、どれくらい入れていますか。

茂木　十五㌔ですね。あとはオルガマグ。大豆蛋白を主原料にしたアミノ酸有機肥料です。

茂木　アミノパックは、ないうことでもないんだ。

—窒素成分が以前に比べて減っていますか。

茂木　減っていますね。

橋本　三分の一は減っているのではないかな。もとは三十㌔の上入れていたときもあったんです。いまは多い人でも二十四、五㌔ぐらいでしょう。

茂木　それはトータルでだね。

橋本　そう。元肥は十㌔ぐらいだね。オルガマグの窒素成分が三㌔……。

茂木　アミノパックは四㌔か。

橋本　そんなところだね。化成の十㌔とアミノパックの十㌔でほぼ半分がちがうものなんだ。

—種イモの植え付けの深さはどれぐらいですか。

橋本　十二、三㌢です。後で土寄せしますからね。

—植え付け二、三日前に留意することは。

茂木　乾きですね。まだ腐土する前は浅いもんで、芽が出たときに干ばつになるとイモに障害が起きる可能性があるんですよ。

—